

という。本年4月に独立した小学校数は、鎌倉市の小学校数に相当する。こうした大きな問題をかかえたなかで、教育予算をどう考え、現場の要求と行政のバランスをどう調整していくか、真剣に検討しているわけである。もう一つの問題は、学校がPTA水道の蛇口を安易にひねってはいないだろうかということである。これは財政的に金をつぎこむだけでは、解決できる問題ではなさそうである。

### 3・教育委員会の機構の問題

近時学校では近代化という言葉をかかんにつかっている。これは技術革新に即応するためとか、新しい科学としての経営学の影響によるものようである。このような動きに対して、「はたしてこれによって学校本来の目的が近代化されるだろうか」とか、「教育は社会更新のエネルギーとなるべきものなのに、教育はいつもなにかの後塵をあびているのではないか」とか批判する人がないでもないが、それはそれとして、学校の近代化に努力していることは事実である。こうした情勢を考えても、教育委員会は現在の機構のままでよいかどうか、反省の時にきていると考える。

教育行政の機能の実際的内容が、有機的に運営されて行政効果をあげているかどうかは十分検討せねばなるまい。そしてそのためにはつぎのような点を反省しなければならないであろう。

- 機構のすべての部分が整然と整理され、しかも全体として統一された共通の目的に向かって動いているか。
- サービス機関としての機能を十分に発揮するために、現場との間にさまたげとなる断層はないか。
- 教育行政の機能の実際的内容のなかで、区の段階におろした方がより能率的であり、効果的であるものはないか。

- 機構内で各部分の分担事務量のバランスがとれているか。
  - 部分あるいは全体のなかに、前近代的なものがないか。
  - 適切な調整や指導助言がなされやすくなっているか。
  - 市政のなかに教育行政が正しく位置づけられているか、またその間に断層はないか。
- ここにも多くの問題が予想されるのである。

### 4———問題解決の方向

これまで検討してきた問題点はいずれも大小・強弱・厚薄の差はあるにしても、すぐ壁につきあたるといふ共通点をもっている。そこでただちに解決はできないとしても、解決の方向におたがいが志向するという方法はないだろうか。これは行政担当者だけでなく、教育の現場や、すべての教育関係者に課せられた課題ではなからうか。技術的に、あるいは物的に現在解決できるものは別として、それでは解決できない壁に対し、共通の理解にたたねばならないものがあまりにも多い。そのためささやかではあるが、問題解決の一つのカギとしてあえてつぎの提案をしたい。

#### (1) 教育が大切であるということの再確認

教育が大切であるということは、いろいろの場である人々によって叫ばれている。それが真の叫びである場合、そういったほうが都合のいい場合、そういわざるをえない場合など千差万別であるが、いまの社会にはあまりにも内容のない教育という言葉が充満している。その結果、「教育過熱の時代」であるとか、「教育ママ横行時代」とかいわれるようになった。危険なことに、それが教育の現場に、あるいは教育行政に多かれ少

かれ影響をあたえているということである。現場も、これをとりまく人々も、為政者も、もう一度正しい教育のすがたを再確認して似て非なる教育尊重論者による教育のゆがみを是正せねばなるまい。そして子どもたちが一人一人それなりに心身ともにすこやかに育ち、それなりに幸福に、それなりに社会に位置づけられるよう、たがいに真剣に教育を考えたとき、前述の問題のいくつかは解決されるのではなからうか。

#### (2) おたがいに人間であるということの再確認

「人間尊重」とは現代のあい言葉である。自分を愛するがごとく人を愛し、そこから生ずる信頼というエネルギーによって、好ましい人間関係をつくっていかうというのであるが、現実の社会は利益とか信条とかのためにむしろ人間不信の渦がまいている。この結果尊大とか、不公平とか、エゴイズムとか好ましくない人間批判の声が生じている。教育行政のなかの指導助言という領域を考えてみても、こうした問題が多いようである。指導する人もされる人も、おたがいに人間であるという自覚のもとに、その作用がなされるなら問題は少ないであろう。この自覚はまた、教育行政上のいくつかの問題解決のために役立つのではなからうか。

#### (3) 十分に話しあうことの実行

現場の声のいくつかは、話しあいの欠除か不完全さがその原因となっている。教育行政の各領域の問題点を考えてみると、とくに話しあいの必要を痛感するが、話しあいには、姿勢・場・時を十分考慮しなければならない。その要素の欠除のためにいろいろな誤解が生ずる。また不手際のために教育行政全般に対する不信をまねいている。現代の話しあいは、結果に対する弁解や個人・集団・地域のエゴイズムの主張などが多いようである。ものを育てるための話しあいは案外に少ない。話しあいは冷静に、建設的におたがいの立場を理解

しつつなされなければ、よい結論には達しない。おたがいによくわからないことを話しあっている場面に遭遇することがあるが、これはこっけいである。顔回が師の孔子に、「先生はあまりにも偉大であるので、近よりがたい」といっている。味わうべき言葉ではなからうか。

#### (4) 計画的にいまなにをなすべきかを考えよう

現代の社会は、あらゆる面で計画の樹立ということを要求している。教育行政もこのらち外ではない。教育は計画的、具体的でなければならないことはいまもかわりはない。予算がないという弁解の一語も、そのバックに計画があるかどうかによって相手のうけとめ方はちがってくる。

古来日本に「<sup>なかいま</sup>中今」という考え方がある。いまは常に過去と将来の中間であり、その時点で最善でなければならないという思想である。教育行政上のいくつかの問題が、いまの時点においては最善であるという自信と熱意の不足のために生ずるものが多いようである。大計をたて現実に足をふまえた教育行政は、またいくつかの問題を解決するものである。

#### (5) みんなでやるの態勢

責任の転嫁はみにくだけでなく多くの弊害をとまうものであるが、これがしばしば、しかも安易に、時には当然のように行なわれているのが現状で、ご都合主義の横行である。家庭、学校、社会、官庁等相互の責任体制が明確でない。いくつかの行政間においてもしかりである。これはある目的を達成する場合において、壁をつくる大きな要因となっている。おのおのが相手の立場をよく理解しあい、目的にむかってその立場で最善をつくし、はじめて調和のとれた好ましい成果があがるのではなからうか。教育に関しても、もう一度家庭ではなにをなすべきか、学校ではなにをなすべきか、社会はなにをなすべきか、行政担当者はなにをなすべきか、またどうあるべきか、反省す

べきではなからうか。

教育は親のものでも、教師のものでも、行政のものでもない。子どもたちのものである。しかし、現実には子ども不在の教育がおのおのの立場で都合よく主張されている場面が多い。責任の転嫁はその分だけ相手に権力を付加するか、それだけ相手から勢力をそぐことであって、けっしてよい結果をきたさない。よい教育が行なわれるよう、みんなでやろうではないか。この態勢がとれるなら、問題のいくつかは、あるいはほとんどが解決の方向に向かうと思うのである。

## 5———むすび

教育行政とはまったくむずかしいものである。家貧にして孝子あらわる。環境は人をつくる。教育のための行政、行政のための教育、子どものための教育、親のための教育、こうした現実のなかで教育というものをもう一度みきわめ、おたがい人であるという自覚にたって、おたがいが納得いくまで話しあい、将来の姿を知り、いまなにをなすべきかを把握し、みんなで力をあわせてやろうではないか。これがいま必要であり、また永遠に必要だと考え、与えられた課題と目的から非常にはずれているかもしれないが、地方教育行政のあるべき姿のために提言するのである。

<教育委員会事務局企画課長>

## 《コメント》

# 教育行政の硬直化に 提言する

古田 光

## 1———教育行政の基本的姿勢とはなにか

井上高三氏の「教育行政のあり方の再検討」を読ませていただいて、あらためて今日の地方教育行政、とくに横浜市のそれが、実に多くの困難な問題に直面していることを痛感させられた。中央からの統制と現場からの要求の間にはさまれながら限られた予算のなかで、急激な人口増からおこってくる諸問題に取り組んでいかねばならない苦勞は、なみたいていものではなからう。いずれもそう簡単に解決できる問題ではないのである。こうした現状を少しずつでも明るい方向に打開していくためには、井上氏も指摘しているように、まわり道のようなものはあるが、まず地方教育当局が、これらの具体的な諸問題に対してどのような基本的姿勢をとるべきかという問題が十分に反省され、その自覚的な確立をはかることが大切であろう。なぜならば、その点があいまいであっては、ほんとうに自主的で計画的な教育行政、また人間らしい血のかよった教育行政を推進していくことはむずかしいからである。

井上氏の諸提案は、いずれもこの基本的姿勢のあり方に関するものであって、きわめて重要な意味をもつものと思う。これらの実現をねがうものは、たんに私ひとりだけではあるまい。このことを前提として、この機会に教育行政に対する若干の私見をのべたい。

## 2———パートナーシップの確立

井上氏は「国の行政の姿勢はそのままに地方の教育行政の姿勢を決定していくという因果にある」